

解釈モデルを深掘る

合田建

自己紹介

- 神戸大学卒業(2014年卒)
- 佐久総合病院初期研修医
- 佐久総合病院 総合診療科 (家庭医療専門研修PG)
- 兵庫県立柏原病院(兵庫県立丹波医療センター)(PG移籍)
- 2023～神戸大学医学部附属病院 総合内科
- 神戸大学医学部附属医学教育推進センター

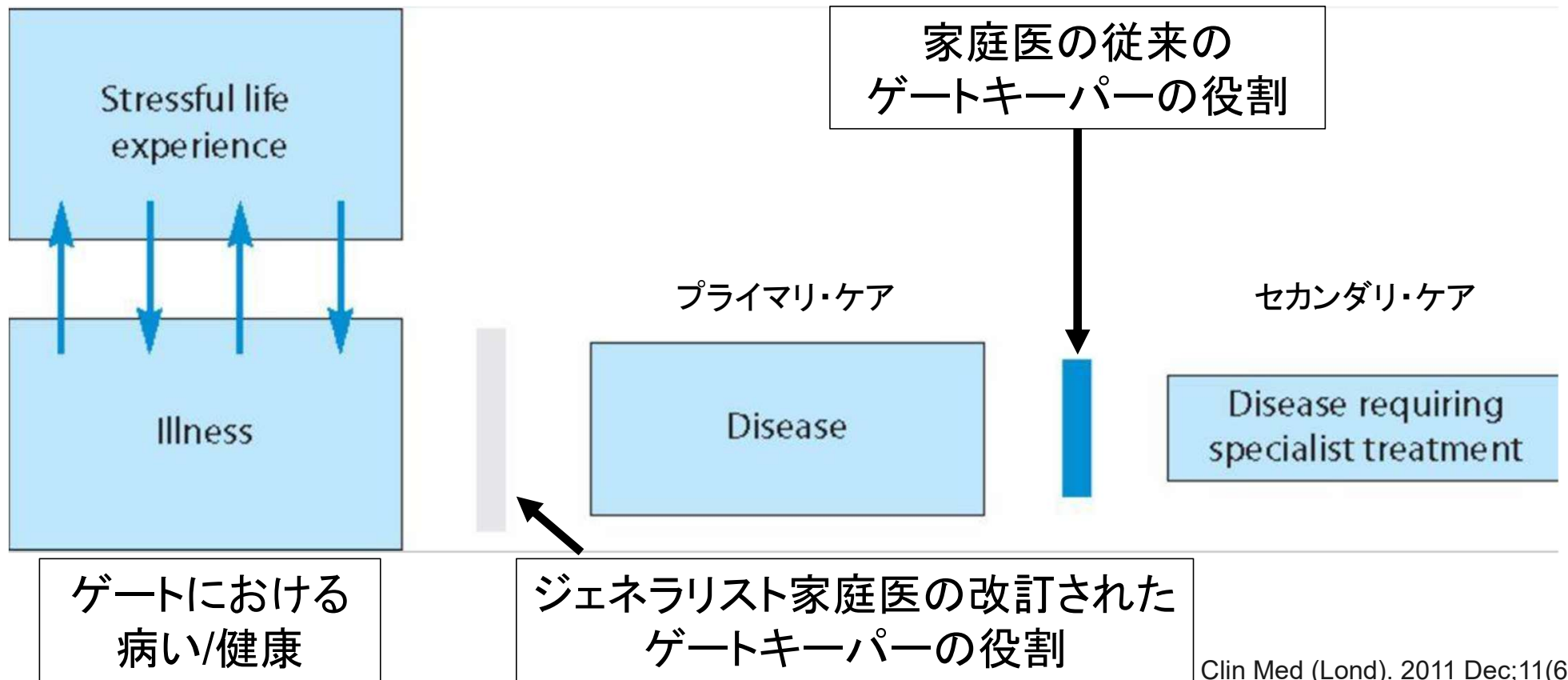
☆家庭医療専門医, 総合診療専門医, 総合内科専門医, 緩和医療専門医

※神戸大学大学院生

家庭医の特徴

1. 患者－医療者関係が診療内容に先行する
2. 患者の個別性を重視する
3. 患者を有機体として捉える
4. 心身を分離しない

家庭医の診療



主訴≠受診理由～真の受診理由は？～

- McWhinneyは受療行動を5つに分類

我慢の限界(67.4%)	症状自体の問題や生活の影響
不安の限界(7.2%)	悪い病気ではないか
生活の問題(8.2%)	大切な人の死
事務的(0.3%)	診断書
予防(16.9%)	予防接種

N Engl J Med. 1972 Aug 24; 287(8):384-7.

早い段階で把握することで、
患者満足度は上がり、診療時間も短縮できる。

J Fam Pract. 2000 Sep;49(9):796-804.

医学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度版

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

GE-01: 全人的な視点とアプローチ

患者の抱える問題を臓器横断的だけでなく心理・社会的視点で捉え、専門領域にとどまらない姿勢で責任をもって診療に関わり、最善の意思決定や行動科学に基づく臨床実践に関与できる。

GE-01-02: 生物・心理・社会的な問題への包括的な視点

GE-01-02-01 身体・心理・社会の問題を統合したアプローチを理解している。

GE-01-02-02 個人・家族の双方への影響を踏まえたアプローチを理解している。

GE-01-03: 患者中心の医療

GE-01-03-01 個々の患者の医療への期待、解釈モデル、健康観を聞き出すことができる。

GE-01-03-02 患者の社会的背景(経済的・制度的側面等)が病いに及ぼす影響を理解している。

GE-01-03-03 医療の継続性(時間・情報・関係等)がもたらす影響の概要を理解している。

解釈モデルとは

- Explanatory model 説明モデル

※患者や家族だけでなく、医療者ももっているもの

FIFE

- feelings (感情)
- ideas (概念)
- functions (生活機能)
- expectations (医療への期待)

かきかえ

- 感情
- 期待
- 解釈
- 影響

病い (illness) へのアプローチ

解釈モデル

- 人間が生活するとは、どういうことか
- 自己とは何か
- 自己が自己であることを保証するものは何か
- 生活する人間は、苦痛・苦難・リスク・病いに対して、どのように反応し、適応していくのか

その人を「個人(person)」としてどうとらえるのか
患者が自分自身を振り返り言語化することを促し、
医師自身もそれにより新たな自分を発見することもある。

A photograph of a female doctor in a white lab coat and stethoscope, smiling as she looks at a document held by an elderly male patient with glasses and a beard. They are in a clinical setting with anatomical charts on the wall, including one titled 'THE MUSCULAR SYSTEM'.

優れたプライマリ・ケアの診療

疾患の医学的診断と同時並行的に、

「その症状や問題は患者自身にとって
どのような意味があるのか」

を探っている

Diagnostic Excellence

- 優れた診断とは患者さんの状態について正確で精密な説明を得るための最適なプロセスを意味する

優れた診断の6つの要素

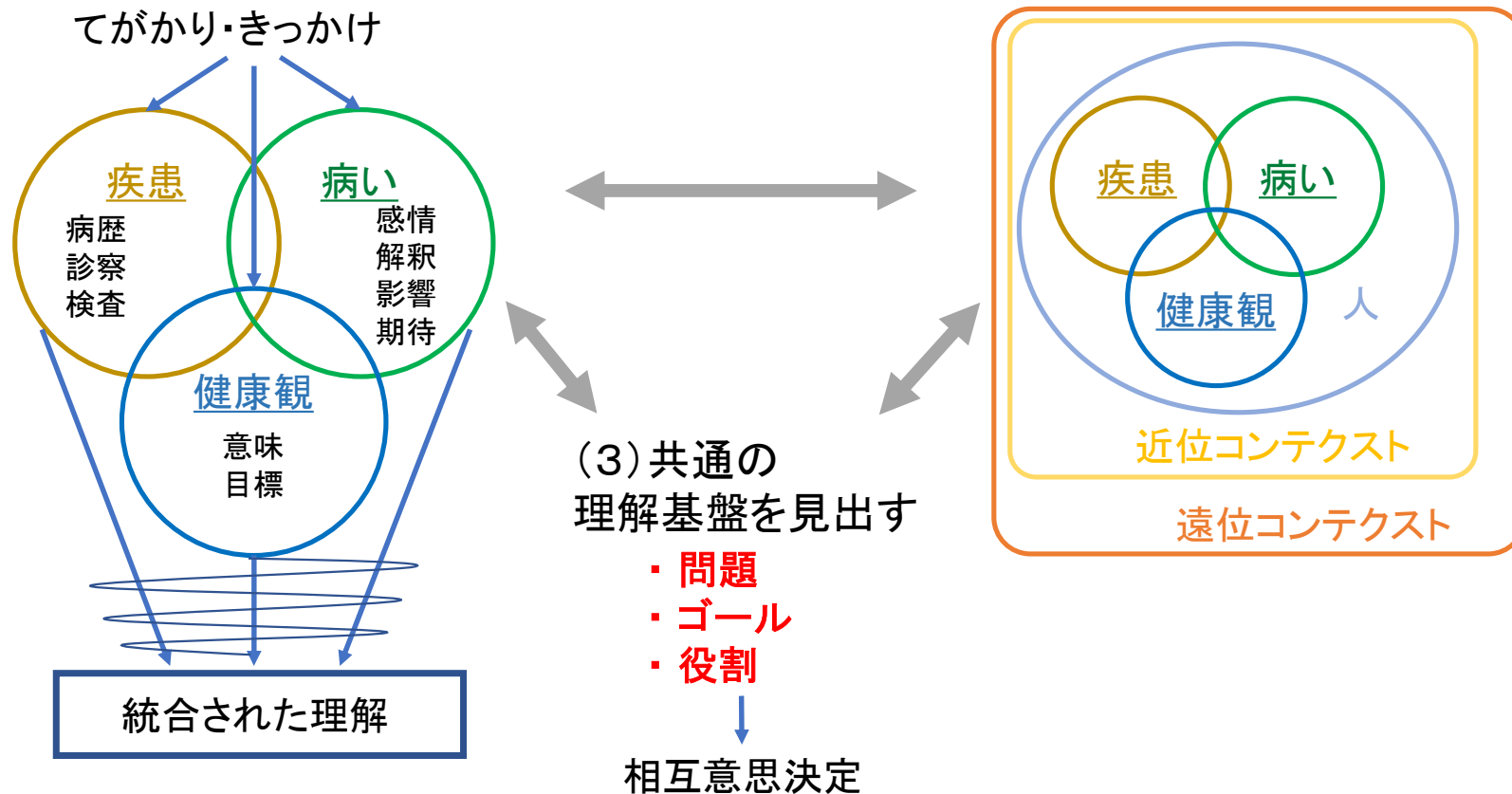


JAMA. Published online October 28, 2021.

患者中心の医療の方法 Patient-centered clinical method (PCCM)

(1) 健康・疾患・病いの経験を探る

(2) 全人的に理解する



(4) 患者-臨床家関係を強化する

患者中心の医療の方法 Patient-Centered Clinical Method (PCCM)とは

- カナダのウェスタンオンタリオ大学家庭医療学講座のグループにて1980年代に開発された。
- 患者中心の臨床技法を**教育可能なもの**として提示された。
- 現在、多くの国の卒前・卒後医学教育システムの基盤となっている。
- 患者満足度のみならず、様々な好影響をもたらす研究結果が報告されている。

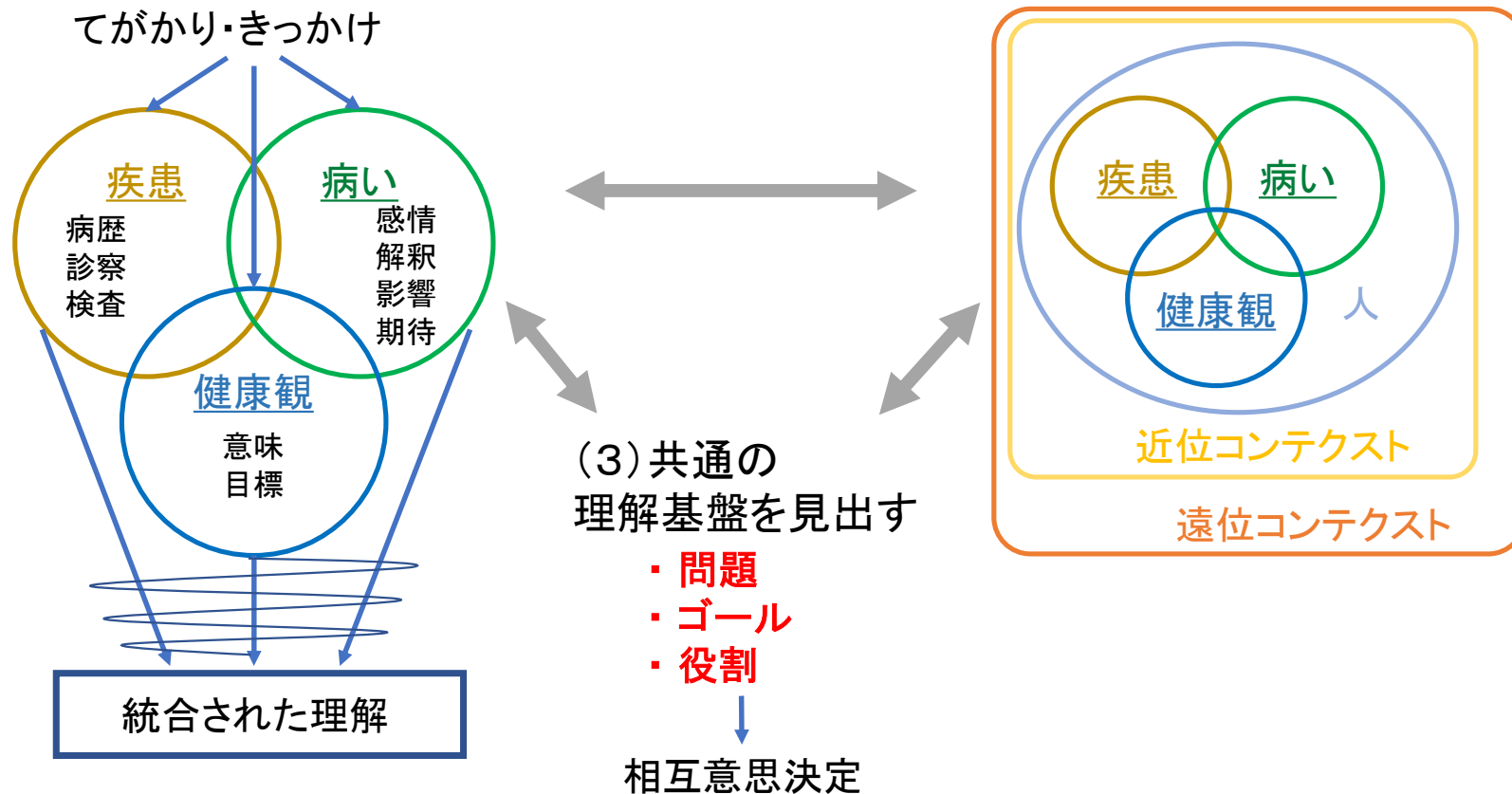
患者中心のケア (PCC) の重要性・意義

- 体調不良や不安からの回復, 2か月後の感情的な健康, 検査や紹介の減少に関連している. J Fam Pract. 2000; 49: 796–804.
- 専門医受診回数・入院頻度・検査の減少, 1年間の医療費低下と関連している. J Am Board Fam Med. 2011; 24: 229–39.
- 急性心筋梗塞で入院した患者で, よりよいPCCを受けた患者は退院後1年後の死亡率が低い. Health Serv Res. 2010; 45: 1188–1204.
- 患者は, PCCを行う医師をより信頼し, evidenceに基づく医療の推奨を受け入れる意欲が高まる. Patient Educ Couns. 2011; 84: 386–92.

患者中心の医療の方法 Patient-centered clinical method (PCCM)

(1) 健康・疾患・病いの経験を探る

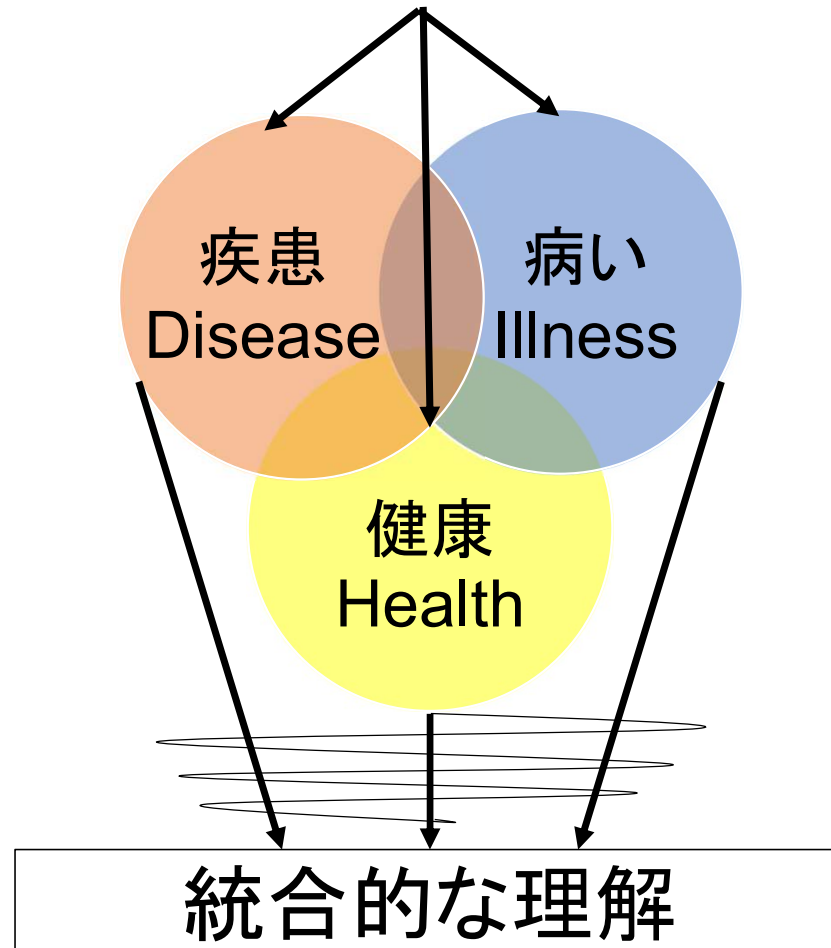
(2) 全人的に理解する

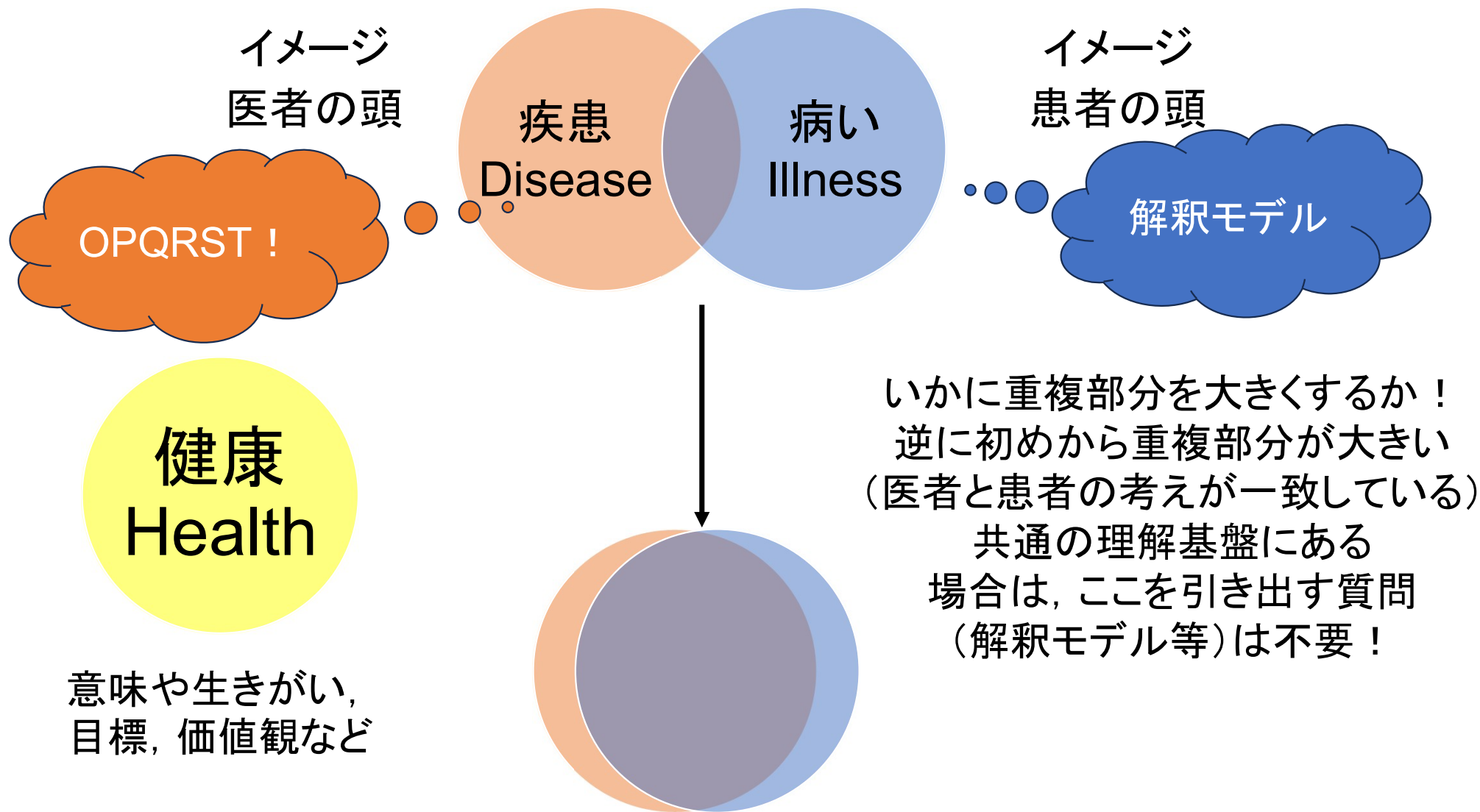


(4) 患者-臨床家関係を強化する

①健康，疾患，病い体験を探る

話を引き出す質問





FIFEを把握することで

- 患者：自身を振り返り言語化することを促される
- 医師：
 - 自分とは異なる人生に出会うことができる
 - 新たな自分を発見することもできる
- 主に「急性」あるいは「新しい」健康問題についてうまく機能する

F: feelings (感情)

- 多弁で繰り返しが多い患者さん, , ,
 - 言葉の意味内容を追っても, 脱線や反復のため何を言いたいのかはっきりしないことがある
- ①うまく表現できず, 何とか伝えようと多弁になっている
 - ②日常生活上のコミュニケーション総量が少なく, 補おうとしている
 - ③背景の「感情」が発語をドライブしている
- 「今イライラしていますか?」「すごく不安ですか?」

I: ideas (概念)

- 自分の病い・症状・苦痛・苦悩などをどう考えているか？
- 病気の「原因」と「帰結」の解釈に焦点を当てる
 - ①原因として、何か思い当たることがありますか？
 - ②このまま放っておくと、どんなことが起きてしまうと考えていますか？
 - ③(特に慢性疾患では)どんなことが病気を悪化させるのでしょうか？
 - ④(特に慢性疾患では)どんなことが病気をよくすると考えていますか？
 - ⑤前に同じようなことがありましたか？
- 文脈を意識してさりげなく質問や把握をしていく。

F: functions (生活機能)

- 病いがある人の生活にどれくらい影響を与えているか
 - ①生きていくうえでの「基本的活動」への影響
 - ②仕事・学校・介護など毎日しなければならない「社会活動」への影響
 - ③マラソンなどの「高度な運動・趣味活動」に影響している場合
- レベル1はADLやIADLを中心に
- レベル2, 3はオープンクエスチョンで
- 日常生活のルーチンの把握とそれへの病いへの影響は治療目標設定に直接関係する.

E: expectations (医療への期待)

- 受療行動がドライブされる思いや考え
- 何をしてほしいですか？ →それは医者が決めることでは...？
- 薬を出そうと思うのですが、どうでしょう？
- 検査をしたほうが良いと思うのですが、どうでしょう？
- 医学的な推奨に加えて、「どうでしょう？」と付け加える.
- こちらの推奨に否定的な発言が出てきたときには、患者の受療行動に伴う期待に切り込んでいく.
- 過去の「医療体験」の影響は大きい

健康とは

①疾患がない状態(客観的で事実に基づくデータに注意を向けている)



②精神的にも, 社会的にも, そして身体的にもすべてが満たされた状態にあることであり, 単に疾患がないとか虚弱でないということではない(1940, WHO)



③毎日の生活のための資源であり, 生きることの目的ではない(1986, WHO)

個人とその人たちの社会的, 身体的環境との間の
相互作用についての生態学的理解

患者中心の医療での健康 (Health)

- それぞれの患者に固有のものであり、単に病気がないことだけでなく、以下を含むもの
- 患者の健康に対する認識
- 健康が患者にとってなにを意味するのか
- 患者の人生にとって重要な願望や目標を追求する能力

病い (illness) へのアプローチ

- FIFE (× FIFEing)
- ライフヒストリーの聴取
- 健康生成論に基づく診療
- 解釈学的医療

Genelinkの現在の主な活動

～学会の域を超えて総合診療の魅力を伝えます！～

- 総合診療の魅力・一目瞭然プロジェクト！
既存のプラットフォームをまとめたWebページ
総合診療に関心のあるものが繋がるオンラインコミュニティ
若手病院総合医とゆる〜く話す会との連携

- 総合診療医の認知度向上を目的としたSNS活用

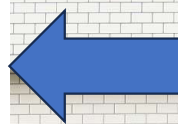


Lineオープンチャット



Twitter (X)
アカウント





Facebook

Instagram

